

認知症入門講座

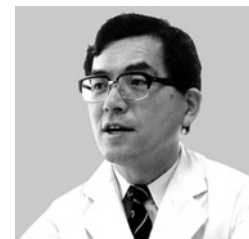
教えて!ドクター



今月のテーマ

認知症の人と家族への社会的支援は
どうなっているの？

認知症の問題が社会的に注目され始めた1980年の初め頃は、認知症の人と家族への社会的な支援は皆無に近い状態でした。その後、国や自治体、あるいは民間の取り組みが広がり、特に2000年に介護保険が始まってからは社会的支援は大幅に増えました。



三宅貴夫 先生
老年科医
京都・盛林診療所所長
(社)認知症の人と家族の会顧問

公的な支援と私的な支援

現在、わが国の認知症の人と家族への支援は実に多種多様であり、メニューはほぼ出そろったと思われるほどです。その支援を、いくつかの視点で分けることができます。

認知症の人と家族への最大の公的な支援は介護保険制度で、ホームヘルプやデイサービスなどがあります。比較的新しい公的支援として、地域包括支援センターも挙げられます。私的な支援には、「認知症の人と家族の会」などの家族会があります。

介護・経済・精神・地域・人権に
関わる支援

介護に関わる日常的・具体的な支援としては、先に挙げた介護保険のさまざまなサービスがあります。経済的な支援には、利

用は少ないようですが障害年金、特別障害者手当などが挙げられます。

精神的な支援とは、介護家族の集いや電話相談などです。地域的な支援として「徘徊高齢者早期発見ネットワーク」や「認知症サポーター」、人権に関わる支援として成年後見制度や高齢者虐待防止法などがあります。

介護・医療の専門職の研修も
社会的支援の一つ

認知症の人と家族には、介護面だけでなく医療的な支援も欠かせません。医療的な支援としては、もの忘れ外来や往診・訪問診療などがあります。しかし、認知症の人が肺炎や心筋梗塞などの身体的な治療を適切に受けられる医療体制は取り組みが遅れています。

認知症の人と家族への支援として忘れてはならないのは、介護や医療の専門職の質

的向上のための研修です。これについては全国3カ所の認知症介護研究・研修センターや日本認知症ケア学会が取り組んでいます。またアルツハイマー病の基礎研究、治療や予防の研究は大学、研究所、製薬会社などで行われています。こうした多様な支援が地域的にも連携し、認知症の人と家族にとってより効率的で有効な支えにならないければなりません。



※詳しくは「認知症なんでもサイト」
<http://www.2f.biglobe.ne.jp/boke/boke2.htm>をご覧ください。